



ひつひつごより

NO.11 2014.1.31

暦の上ではまだ立春ですが、冬の寒さはこれからが本番。木々は眠り、雪と氷に覆われる長い軽井沢の冬。真っ白な雪の上にはてんてん…といくつもの足跡、野ウサギ、リス、キツネ、野ネズミ、小鳥たちの足跡を子どもたちと見つけました。

葉や木の実がなくなり冬の森で「彼らは日々、命がけて生き抜いていること」です。

でも、そんな厳しい寒さの中でひたすら眠り続ける動物もいます。しかも11月から5月までのことと、7ヶ月もの間。それはマリネズミ、コオリネズミともよばれる「ヤマネ」という動物です。7ヶ月の間、ヤマネはなんと体温を0度近くまで下げ、10倍も落とし、飲まず、食わずに眠り続けるのです。そして、森の木々が芽吹き、鳥たちが子育てをはじめる頃、ようやくヤマネは目覚めます。しかも、その日も1時間以上かけて、ゆっくりと目覚めるのです。そのような特異な生き方で、多くの生物が絶滅した氷河期時代から現代まで、ヤマネは生きぬいてきました。

ヤマネにとって、「目覚め続けることが生き抜くこと」だったのです。そして、ゆっくりと目覚めることは、危険な体温上昇をさけ、体を正常に保つ工夫なのです。一見すると、のんびりおとどりやのねこすくくんにみえますが、長い目でみていけば、そこには大きな変化や大切なことが含まれているのです。自然をみつめていると感じるのは、感じずにはいられません。

人もそれぞれの育ちやあり方が「あると美しいです。

ひつひつの子どもたちも、「ありのまま」「ゆるぎ」生きていくために大切に根っこをしっかりと、しっかりと伸ばしてきました。

一ヶ月もじっと動かすことのなかった子。何かあると、その場から逃げてしまつた子。朝の返事が耳にすかして、言えてなかった子。立ちきたてら、長い間立き続けている子。

それぞれ、自分の想いと向き合い、周りとそんな日々でもみつめているのだと思ひます。すぐにはみえたかたけれど、ゆっくりとどの子も変わってきました。目にみえたものだけではない変化もたくさんありました。

そして、そこには、そばにいて、励まし、受けとめてくれた仲間、信じて待つてくれた人達がいました。たくさんの方を借り、見守られてながら育ってきました。

寒さの中ではあるけれど、よくよくと育っている一人一人の姿に、この時其月いつも、とても嬉しくなります。

春にじめでひつひに来ては時、1年前、2年前…4年前を思い返すと、様々にこどもたちの姿が更生できます。スタッフで、そんなことを語していると、あ、という間に日時間が過ぎてしまします。

それぞれの日々の中で、じっくりと、でも確かに変わってきた子どもたち。今年度もあと少し。残りわずかの時を大切に、すこしていきたいと思ひます。

：菜々東



おかきいくけたよ!

おかきいくけたよ! 特におかくり、くりさんの年齢にたどり、身体能力もぐぐと発達するから、「スピードがあり、スリルがあり、スキルがアップしていく」、そんな3Sがそろそろ遊びに夢中になります。雪がない今冬、雪だるまや雪山をつくたり…という遊びはなかなか出来ませんが、そのうえ、3Sがたっぷりつまたそり遊びで楽しんでいます。

冬のはじめのそり遊びは、元気いっぱいです。滑り終えた人がまた立ち上がりていないので、次の人が滑ってまい、下で衝突してしまうこともあります。坂を登ってくる人の流れ、そりが突っ込んでしまうこともあります。失敗で繰り返しながら、楽しく安全にそり遊びができるよう約束事を確認していきます。滑り始める前の「ハーハーハー!」の声、「いいよー!」「まただよ!」と滑り終わった人や周囲の人から答えます。坂道を歩く側と滑る側に分けた、「そろそろ滑る道だよ、歩く時はこちだよ」と声をかけ合う場面も見られることがあります。どうやら約束事、浸透してきて、トラブルも減り楽しい時間も長く続くなっています。

チャペルの横の坂は、斜度が急なので、かなりスピードが出ることもあり、そこでのそり遊びを放課後する人もいました。しかし、海風が始めた「あざらし滑り」が大流行り。ここ遊びの要素を加えながら、笑顔、笑顔で大盛り上がり。そりを使わず、腹をおいかげて滑るあざらし滑りは、そりだとスピードが出せず怖がった人たちにも大人気です。

周囲道路の緩やかな坂は、降雪量が少なく車で踏み固めるとアスファルトになり、恰好のそりコースになります。新調した赤いそりは少し長めのサイズ。遠香、悠太、陽麗は3人でそりに乗って滑るの大好き。坂を登りながら「次は誰が一番前になる?」と相談しています。里は、右手で地面につけると右側に、左手でつけると左側に曲がることを発見したようで、コースを引くうな子と上手に進行方向をコントロールしています。春雅はオレオレのホーリー選手のように走り、かねて遠くまで滑っています。

紅葉谷には急で長い坂があります。ここを滑るのは勇気が必要。宇大朗が走り出すと、小さい木に激突。「かがないかあ?!」の京悟の呼びかけに苦笑いで答えた宇大朗。再挑戦に見事に滑り降りました。父と誰かと2人で来りた万里央子が、人乗車にチャレンジ。想像以上のスピードで下りでしゃう。止ま万所でそりに座りまく「こやかだー」と大泣き。それでも泣かなければうたに、そりで手にじて坂を登っていました。

坂を登るそりで、お腹で、お尻で滑ることで逆走と繰り返していく中で強張り、ひた全身も締め、汗をぬるぬるに身体をほのかほのか。あ、という間に、時間も過もひます。冬がたてはの3S(スピード、スリル、スキル)な遊び、満喫中です。(文中、敬称略)

慎之介

お知らせ

- ・保護者会 日時 2月4日(火)
9時20分～ メインホール
- ・来年度入園予定の方達の親子体験入園が始まります。
私とお友達が入園する小学校の先生も見学のため
来園予定です。
- ・2月のアート日 2月13日(木) 今年度最後アートです。
- ・2月のえりんこアート日 2月19日(水)
メインホールで「行け声」マイクなど配属下さる。
- ・びわんや団体登録代金を納入銀行へ請求させていたしました。
よろしくお願ひいたします。
- ・「大人のためのアート時間」のお知らせ。
日時 3月6日(木) 10時～1時間位
場所 びわの森
持ち物 子ども達と同じアートセット
・寒い時期の方々へ筆で持てる手帳をご用意下さい。
- 講師 小林郁絵さん
- 参加対象 お年少の子の親さんお友達です。
- 参加費 1000円
ご希望される方は、まだ先方が 2月中に 中澤までお知らせ下さい。

田畠より

今まで冬の田畠は雪に覆われていましたが、今へ来て冬がやみまだらの地面が見えてきました。秋の終わりに霜からとれたものをすき込んで「水入れ」田んぼは半分くらいよく伸び、それで鳥たちは凍てない水面を日中してエサを探いやで来ます。普通用木路から水も引き入れている田んぼは、冬の間木路を開けられるため水を入れられないことが多いため、開けた後の田んぼは浦さくと直接入れるため、冬も豊富に水を入れることができるのでうれしいことです。田んぼは水をため、3月まで張ることで霜から守られ、冬も豊富に水を入れることができるのでうれしいことです。田んぼは続くことで田んぼの土は肥沃になります。

秋に種まきした畠の小麦は雪の中でも青々としていて、冬は霜柱に干すと雪が飛んで「麦踏み」として根が凍めるのを防いであります。1月は青い芽をキュウキューと上から足で踏みつけられて雪と雪を落とす気もしますが、踏んで後また足と伸びる芽は、まるで這い登る感じです。



ひよひよレシピ Note 「豆乳あんかけ丼」

- ・お鍋にサラダ油を熱し、みじん切りのじゅうが、長ねぎと豚肉をよく炒め、塩こじれます。
- ・えこへ人参・玉ねぎ・大根・白菜など季節の野菜を干切りにしてそれを次々入れて炒め、全体がしゃべりしゃべりたら酒・みりんで振り入れり量の熱湯を注いで煮立てアツモリます。
- ・ひと煮立ちしたら豆乳を加え、塩・しょうゆ・オイスター・ソースで味を整え、水溶き片栗粉でとろみをつけます。
- ・ぶりにゆであげたりんご・チーズ・チーズの青菜を刻んでその上に散らします。
- ・黒米ごはんに白い豆乳あんをかけて彩り鮮やかに出来上がり!
- ・真冬の寒い日のひよひよランチには、冷めにくいあんかけが大活躍。ネギとしょうがで身体もぽかぽかと暖まりますよ。

ひよひよの森の小鳥たち(アカゲラ)

「静かに森の中、響く音は～♪ 大工のキツツキさん木をきる音～♪」
子どもたちの大好きな手遊び歌にも登場するキツツキ。「キツツキ」というのは俗称で、
軽井沢の森には、コゲラ、アカゲラ、オオゲラという3種をみることができます。その中で、
お腹と頭の後(オスのみ)が赤いのがアカゲラです。
彼らが木をつつくのは①求愛のため(春先にものすごく早い音が聞こえる「ドミンク」)
②巣づくりをするため(春～夏)③エサを探す(枯れ木がタリ)。というのが主な理由です。
今の季節は③の理由で木をついていろことがほとんどですが、もうすぐ、3月に入り、あたたかくなってくると、
タラララララ…という「ドミンク」の音が歌のようにな
響いてくることでしょう。そんな日が待ち遠しいですね!

